

日交研シリーズ A-577

平成 24 年度特別研究プロジェクト

「道路の整備と維持に関する基本制度のあり方に関する研究」

刊行：2013 年 10 月

## 道路の整備と維持に関する基本制度のあり方に関する研究

Agenda for the Future Policy of Highway and Road Improvement and Maintenance

主査：太田 和博（専修大学商学部）

Kazuhiro OHTA (Senshu University)

### 要 旨

本研究は、平成 23 年度に道路経済研究所からの寄附金である道路経済研究特定資産に基づく特別研究として開始した「道路の整備と維持に関する基本制度のあり方に関する研究」を継続したものである。平成 23 年度の特別研究は、同年 9 月から開始し、研究メンバーの道路政策に対する共通認識を醸成するために、もっぱらヒアリングおよび事実確認を行った。このため、本研究プロジェクトでは平成 23 年度の報告書を作成していない。

本研究プロジェクトは、道路関係四公団民営化および道路特定財源の一般財源化という 2 つの政策決定とその実施が一段落したとの認識に基づいて、今後の道路政策のあり方を検討することを目的とした。本研究プロジェクトの先にある最終目標は、道路政策のあり方に関する政策提言である。この目標に向けて、老壮青（表現が不適切かもしれないが）の研究者がディスカッションを交わす方法を採用した。世代を超えた政策論議、とくに長く道路政策の策定に関わったシニアの先生方からのコメントは若手研究者にとって貴重なものであった。

最終目標は政策提言であったが、提言の妥当性や実現可能性を詳細に整理することができなかつたため、本報告書においてディスカッションの方向性を「道路政策に対する提案」として開陳する。妥当性および実現可能性に関する精査は行われていないが、提案は、現状に対する共通の問題認識および洞察の反映であるとともに、将来の道路政策の可能性のいくつかを例示するものとなっている。本報告書が、道路政策のあり方に関する議論を促進するものになるのであれば、望外の喜びとするところである。

キーワード：道路政策、財源制度、料金・課金制度、意思決定制度

Keywords: Highway and Road Policy, Financial System, Tax, Toll and Charge System, Decision Making System